

大本染工 株式会社

蒸し工程の内製化による染色加工品のさらなる生産量への対応と、コスト削減の実現

ヨーロッパでは捺染をスクリーン手法で行う業者が減少しており、当社への依頼が増加傾向である。これ以上の外注が難しい「蒸し工程」の内製化により、さらなる生産量への対応とコストダウンを同時に実現、競争優位性を獲得し、ヨーロッパ市場でのさらなる受注獲得を目指す。

■ 代表者	代表取締役社長 濱野 公達	■ 所在地	〒612-8244 京都市伏見区横大路千両松町201
■ 設立	昭和50年12月3日	■ TEL/FAX	TEL. 075-612-8881 / FAX. 075-622-3552
■ 資本金	20,000千円	■ URL	http://www.omotosenko.com/
■ 従業員数	27人	■ E-mail	kotatsu.hamano@omotosenko.com
■ 業 種	繊維工業	■ 得意分野	染色加工全般「お客様のご要望に応じ、最適な図案デザイン、配色、染色加工法をご提案いたします」

目的、取組のきっかけ

当社は、スクリーン加工やインクジェットプリントによるデジタル加工など染色のプロフェッショナルとして、創業以来多くの製品を世に送り出してきました。創業時は手捺染と呼ばれる手作業が主体で、当社も長年にわたり手捺染による染色の技術を蓄積してきました。現在ではその技術を基礎として、多彩な表現が可能な、フルラインの染色加工体制を実現しています。

◆ お客様の要望の高度化とサプライチェーンの多様化

平素当社には、お客様から図案、配色、素材など染色に関するあらゆる相談が寄せられています。当社はお客様に最適な染色加工を提案していますが、近年は、多品種小ロットでありながら低コスト、短納期とお客様の要望がますます高度になってきています。

また主要顧客のアパレル業界では、近年ますますサプライチェーンの多様化、グローバル化が進行しています。例えばウールなど起毛素材にはスクリーン染色が不可欠ですが、ヨーロッパではスクリーン加工業者が減少しており某有名ブランド企業は、染色の依頼先をグローバルに広げています。コロナ前は当社へもスクリーン加工の染色依頼が増加傾向でした。

◆ 外部環境の変化に対する当社の対応

このような外部環境の変化によって、当社はさらなる生産量への対応と短納期、コストダウンを同時に実現する生産体制の構築を迫られました。そこで当社は、ボトルネッ



手捺染加工



オートスクリーン加工

クの蒸し工程の課題に取り組むことにしました。本事業前の蒸し工程は、既設蒸機1台と外注により対応していましたが、近年蒸し工程の企業が40社から10社にまで減っており、納期が長くなっていました。よってこの納期の問題解決と最適な条件で蒸し処理をすることで品質の安定化を図るため、蒸機を増設し、蒸し工程を完全内製化することを計画しました。

取組内容

◆ 生産体制の完全内製化に向けて

今回の補助事業を活用し、蒸機を1台増設、既設1台と合わせ蒸し工程を内製化することが出来ました。これにより最終の整理（糊の洗い流し）以外の生産体制を自社で完結することが可能になり、さらなる生産量への対応と短納期・コストダウンを同時実現することが可能になります。

今回の蒸機の装置メーカーは台湾のJUNG HONG社に決めました。蒸機の世界的メーカーはイタリアと台湾にあります。既設はイタリア製で、メリットはシンプルでトラブルが比較的少ないことですが、調査の結果、現在はメンテナンスや技術支援体制に難があることが分かり、台湾製を採用しました。今回も採択から事業完了まで日程がタイトなこともあり、装置の納入から立ち上げまで突貫工事でしたが、台湾側の絶大な協力もあり無事期間内に完了することができました。本事業の生産工程比較で、図の条件通り、蒸し工程が外注では2日かかっていたのが、内製化により60分と大幅に短縮することができました。これにより最適な蒸し条件で品質の安定化が図れると共に、生産量25%アップの見込みが立ちました。

◆ その後の蒸機稼働状況について

順調に稼働していた同機ですが、本年6月に不具合が発生しました。装置内に水滴が付着し、生地に染色ムラが出来るトラブルが起きました。この時期はまさにコロナの渦中にあり、台湾から技術者が来れない事態となりました。しかし台湾の技術者とオンラインでやりとりしながら

企業概要



会社建屋

当社は昭和10年に創業し85年が経過しました。この間染色加工技術は、手捺染からスクリーン、デジタルプリントと日進月歩で進化を続けています。当社は新技術への対応を図ると共に、伝統的な表現や風合いにもこだわりお客様に満足いただける最適な染色加工を追求しています。

主要製品

染色加工全般請負（オートスクリーン加工、インクジェットデジタルプリント、昇華転写プリント、手捺染）



オートスクリーン

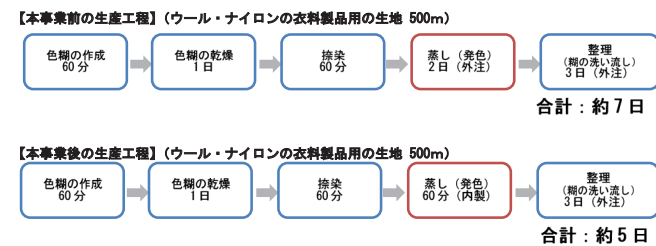


インクジェットプリンター



輪転機

生地のがすがたまりやすい装置内の場所が特定できたことにより、根本的な解決が図れ、逆に生産性が想定より高いことが分かりました。



蒸機（台湾 JUNG HONG 社製）

成果と今後の展開

他の多くの染色業者は、単一加工設備で少品種大量生産によってコストダウンを目指されています。一方当社は、多様な加工設備をラインナップし、多品種小ロットから大量生産まで様々な染色加工の要望に対応できます。また今回の補助事業を活用し、蒸機の増設によって、内製化の生産ラインを構築しました。前工程段階では、100種類以上の糊や薬品を組み合わせ多様な素材に対応できる豊富なノウハウを持っています。しかしこの多様な加工設備や豊富なノウハウを駆使してお客様の要望に応えるために

主要取引先

グンゼ株式会社、東洋紡STC株式会社、株式会社ポーン、武田株式会社、株式会社ビューテックス、その他テキスタイル、スポーツ衣料メーカー、靴雑貨等の小物、インテリア関連メーカー

主な保有設備

オートスクリーン、インクジェットプリンター、昇華転写プリンター、前処理機、輪転機、カラーキッチン、蒸機

は、人財の育成とIT化による無駄のない生産体制構築が急務です。

◆ 人財を育成し、多能工化に力を入れる

今年2名の新人を採用します。当社は一人ひとりの人財育成の目標を決め、これまで以上にOJTとOff-JTを組み合わせた教育を行い多能工化を推進しています。各種の工程、業務のマニュアルを整備し、マニュアルをベースに自分で考え動くことができる人財に育つよう上司と部下のコミュニケーションの促進を図っています。また5S及び3定（定位、定品、定量）を徹底し、日々生産性の向上を目指しています。

◆ IT化による無駄のない生産管理の推進

繊維業界はまだ旧態依然であり、紙ベースのやりとりが常態化しています。しかし当社は以前からIT化に力を入れ、デザイン図柄デジタルで送ってもらい、生産指示まで一気通貫につなげる業務の流れや生産工程を見える化し、ロス率や原価率などを即時把握できるシステムを構築しています。近年DX（デジタルトランスフォーメーション）が進み、さらなる無駄のない生産工程を目指していきます。

現在はまだコロナ禍ですが、時間のある時にこそできることを着実に実行していき、伝統工芸の「捺染」の技術を承継しつつ、有力な繊維業として地域経済の発展に寄与していきます。



カラーキッチン